

木曾地域交通網対策協議会設立趣意書

木曾地域は長野県の南西部にあり、東京圏から約 200km、名古屋圏から約 100 km、関西圏から約 250 km に位置し、南北約 60 km、東西約 50 km で総面積 1,546.26km² の広大な面積を有しています。交通網は、圏域の中央を木曾川に沿って南北に縦貫している JR 中央西線と国道 19 号を幹線として、国県道、町村道、農林道が急峻な地形を縫って伸びています。

この地域は、長野県の南の玄関口として、中京、関西圏に近接し交流の度合いはますます深まっています。また、権兵衛・姥神トンネルの開通により、今後は関東圏との交流の機会も多いに期待されています。

他地域との交流を促進し、地域全体の振興を図るためには、交通網の南北軸、東西軸の強化、また、圏域内のネットワーク化が不可欠です。このためには、南北軸の国道 19 号や右岸道路を始め、東西軸の国県道等の整備を着実にを行うとともに、唯一の鉄道である JR 中央西線の運転本数や首都圏方面からのアクセス等利便性の向上を促進する必要があります。

私たち木曾地域の住民にとって交通網の整備促進は、生活路線としての機能確保、産業振興、観光開発等地域の活性化を図るために最大の急務であると考えています。

現在、木曾地域には、交通網に関係する期成同盟会が多くありますが、合併で町村数が減ったことにより組織構成が変わった中で、今後、効率的な活動や運営をどのようにしていくか検討してきました。

木曾地域の期成同盟会組織のあり方としては、木曾地域の会員で組織している各同盟会を統括する体制を整備し、全体で協議する場を設けることで効率的な活動や運営を行うことができると考えられます。現在の期成同盟会組織は、この新体制の中で各部会として位置付けることで今までの事業の継続を図りながら活動を行うことができると考えます。また、統括された体制を整備することで期成同盟会ごとに予算化されていた財源を一本化することができ、全体として運営経費の節減に繋がることが期待されます。

このため、道路関係、鉄道関係の期成同盟会を統括する組織として、「木曾地域交通網対策協議会」を設立するものです。

平成 19 年 3 月 20 日